

# 日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IGBP/WCRP合同分科会

更新日

(2009/05/01の形式)

## 国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 世界気候研究計画

(欧文) World Climate Research Programme

(略称) WCRP

日本学術会議加入年(西暦) 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) WCRP Joint Scientific Committee (JSC)

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Prof.A. Busalacchi		Dr D.J. Griggs	Ghassem Asrar
(国)	U.S.A.		Australia	U.S.A.

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

JSC議長、WCRP事務局長が、前任役員から推薦を受けた候補者について、International Sponsors である ICSU, WMO (World Meteorological Organization), UNESCO/IOC(International Oceanographic Committee)の代表と相談しながら決定する。

加入国・地域の数 約30ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

U.S.A., U.K., Germanay, Japan, China, Canada, Australia, Italy, France, India, Brasil, Norway

国際学術団体のホームページURL

<http://wcrp.wmo.int/wcrp-index.html>

国際学術団体の年間運営経費

3,000,000 Swiss Franc

日本の分担予定額[事務局で記入]

3,101千円(2012年度)

## 国際学術団体の活動状況

### 総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2009 Mar. 5-7	International MAHASRI/HyARC Workshop on Asian Monsoon	Da Nang, Vietnam	73	28	有
2008 Oct. 20-25	Second Pan-WCRP Monsoon Workshop (PWM2)	Beijing, China	200	100	無
2008 Aug. 31- Sep 5	4th SPARC General Assembly	Bologna, Italy	300	30	無
2008 Jan. 28 -1 Feb	Third WCRP International Conference on Reanalysis	Tokyo, Japan	200	100	無
2007 Oct. 22-26	The 2nd Asia-CliC Symposium - The state and fate of Asian Cryosphere	Lanzhou, China			

### 運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2009 Jan. 19-23	GEWEX-SSG	University of California, Irvine, USA	13	松本 淳	
2008 Dec. 8-11	CliC-SSG	WMO, Geneva, Switzerland	10	大畑哲夫	
2008 Nov. 10-1	SPARC-SSG	Toronto, Canada	8	林田佐智子	
2008 Mar 31- 4 Apr	29th JSC-meeting	Arcachon, France	12	安成哲三	
2008 Feb. 4-8	GEWEX-SSG	Buenos Aires, Argentina	20	安成哲三、小池俊雄、松本淳	

### 出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

WCRP-series report 年数回、WCRP informal report (不定期)、WCRP-JSC report 年1回、WGNE report 年1回、WCRP electronic newsletter 年4回、CLIVAR newsletter (exchanges) 年4回、GEWEX NEWS 年4回、SPARC newsletter 年2回、CliC Ice and Climate News 年2回、SOLAS News 年3回、WGSF Flux News 年2回

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;"><b>国際機関等の提唱で行った活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ IPCC (気候変動に関する政府間パネル) の第4次報告書(IPCC-AR4) の特にWG-1 reportの実質的および組織的な貢献</li></ul>
<p style="text-align: center;"><b>国際機関等への提言等</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ UNFCCC (国連気候変動枠組み条約) への地球温暖化、地球変化研究に関する提言と連携を進めた。</li></ul>
<p style="text-align: center;"><b>国際事業等への参加・実施等</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ GEOSS(The Global Earth Observation System of Systems) への貢献</li></ul>
<p style="text-align: center;"><b>全世界的/地域的研究課題への取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ IPY (International Polar Year) の重要な国際的なプログラムとして観測、モデル研究に取り組む<ul style="list-style-type: none"><li>・ AMY (Asian Monsoon Years 2007-2012) の組織および集中観測の実施(2008-2009年) によるアジアモンスーンの変動機構の科学的解明</li></ul></li></ul>
<p style="text-align: center;"><b>発展途上国への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 西アフリカモンスーン研究計画 (AMMA), アメリカモンスーン変動研究計画 (VAMOS)、モンスーンアジア水文気候予測研究計画 (MAHASRI) を通して、発展途上国の気候予測、水循環変動予測の向上に貢献 特に、日本がリードしているMAHASRIでは、<ul style="list-style-type: none"><li>・ MAHASRI集中観測における観測機材の提供および能力開発活動の推進</li><li>・ ベトナムでのMAHASRI/HyARC国際ワークショップの開催 などを通して、東南アジアの気候・水文研究のキャパシティビルディングに貢献している</li></ul></li></ul>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>気象学気候学、水文学、生態学、大気化学などの関連地球環境科学研究の連携を通して、特に、地球温暖化などの人間活動が気候変化・変動に与える影響の解明、評価、予測研究を国際的に進めるために、WCRPは大きな役割を担っている。</p>
--

## 国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
WCRP-JSC member	中島映至	2009	
WCRP-JSC member	安成哲三	2003	2008
WCRP/CLIVAR-SSG member	時岡達志	2006	
WCRP/GEWEX-SSG member	松本 淳	2003	
WCRP/SPARC-SSG member	林田佐智子	2006	2008

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同IGBP/WCRP

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

--

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本気象学会	4300	<a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj/">http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj/</a>
水文・水資源学会	1000	<a href="http://www.jshwr.org/modules/news/">http://www.jshwr.org/modules/news/</a>
日本雪氷学会	1040	<a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssi/index.html">http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssi/index.html</a>
大気化学協会	400	<a href="http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/ste-www1/div1/taikiken/">http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/ste-www1/div1/taikiken/</a>
日本海洋学会	2000	<a href="http://www.kaiyo-gakkai.jp/main/">http://www.kaiyo-gakkai.jp/main/</a>

## 学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名  
所属分野別委員会

WCRP小委員会 (IGBP/WCRP合同分科会)  
環境学委員会

### 分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
安成哲三	小池 勲夫	甲山隆司	松本 淳

会員数	連携会員数	特任連携会員数
2	11	17

### 分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

- a) IGBP、WCRP両計画およびESSPを通じた国際貢献
- b) 両計画およびESSPに関連した国内プロジェクトの推進と連携
- c) 両計画に関連した地球環境科学研究の日本の学術推進への貢献

### 今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2008/12/19	1) 新委員会体制(委員長、副委員長、幹事など)の選出 2) IGBP, WCRPの国際動向の報告 3) 本分科会の役割と今後の活動についての検討
2009/02~03	WCRP-CLIVAR小委員会をメールにて開催。第16回研究運営会合に向けて、1) 国内研究活動状況について、2) 研究運営グループに対する要望、3) その他、について議論。
2008/5/30	第4回 MAHASRI小委員会 1) 前回(2007年8月20日)以降のMAHASRI及びAMYに関連した活動報告 2) MAHASRI、AMYに関連した観測計画の概要 3) MAHASRI、AMYに関連した今後の関連行事の紹介 4) その他

#### 日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- ・WCRP日本語版HPの作成 (<http://www.jamstec.go.jp/frcgc/wcrp/>)
- ・WCRP-CLIVARの第16回研究運営会合について、WCRPホームページ上で内容紹介をおこなう。
- ・日本惑星科学連合大会でのスペシャルセッション「モンスーンアジア水文気候研究計画(MAHASRI)での周辺分野連携」の開催(2008年5月30日)
- ・日本気象学会秋季大会スペシャルセッション「GAMEからMAHASRIへ」開催(2008年11月19日)
- ・日本惑星科学連合大会ニュースレターJapan Geoscience Letters 5巻1号(2009年1月)への「アジアモンスーン気候の解明にむけて-国際共同研究MAHASRI-」記事掲載。
- ・日本地球惑星科学連合2009年大会において、MAHASRI小委員会とiLEAPS小委員会メンバーが中心となり「水文気象学と生物地球化学の連携」(口頭発表20件、ポスター8件)セッションを持った。
- ・日本地球惑星科学連合2009年大会において、SPARC小委員会メンバーが中心となり「成層圏過程とその気候への影響」(口頭発表24件、ポスター発表4件)セッションを持った。

#### 国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- ・日本地球惑星科学連合、日本気象学会でのスペシャルセッションの開催
- ・SPARCとIGACの国際合同科学者会議が本年10月に日本で開催されるのにあわせて、関連する研究発表、情報交換、研究推進を図るためのワークショップをSPARCとIGACの小委員会メンバーが合同で計画している。

#### 特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- ・WCRP-CLIVARの第16回研究運営会合で関連する国際活動の点検を行ったが、アフリカ域の気候変動パネルの活性化が求められ、日本の支援が打診された。今年度より、科学技術振興機構の支援により、我が国は「気候変動予測とアフリカ南部における応用」を南アフリカ共和国の機関と開始したところで、このパネルの活性化に貢献するものである。

#### 分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

- ・WCRP-CLIVAR小委員会は、メール、WCRPホームページを活用し、議論、意思疎通、広報を図っており、委員会としての機能を果たしている。
- ・各小委員会とも、年2回程度の小委員会を開催しており、国際プロジェクトの推進に必要な最低限の活動はなされた。
- ・MAHASRI小委員会は、MAHASRIの国際的推進のため、正規の小委員会以外に年数回、実行委員会を開催している。